

復興への企業の貢献



復興庁統括官

岡本 全勝 氏
おかもと まさかつ

この『インターリンク』をお読みの方は、民間企業の方が多いと思います。まず、皆様にお礼を申し上げます。

私は発災直後に、被災者を支援する政府組織の事務責任者に指名され、その後も引き続き、被災地の復興に携わっています。

当初、政府は、四七万人に上った被災者に、緊急物資を届けました。二千六百万食もの食料のほか、歯ブラシなど各種の日用品、さらには棺桶など、膨大な品目と数量です。関係業界にそれらの調達をお願いし、現地に運びました。みなさん、快く協力してくださいました。しかも多くの企業が、これらの品物を無償で提供してくれたのです。

このほか、義援金や無償の物資とともに、社員をボランティアに派遣した企業、社員食堂で被災地の農産物を使っている企業など、多様な支援が続いています。

本業の事業活動も、大きな貢献をしました。電気、ガス、通信、銀行、ガソリンスタンド、コンビニなど。企業が復旧を急ぎ、サービスを再開しました。これらは、被災地で生活を再開するには、なくてはならないものです。また、早急に工場を復旧させ、生産を再開しました。これによって、日本経

済が驚異的な早さで立ち直るとともに、被災地で雇用が確保されました。

しかし、復興には、まだまだ皆さんの協力が必要です。復旧工事に、企業の力が必要なだけではありません。インフラが復旧しただけでは、暮らしは戻りません。商店があり、各種のサービスがあり、そして働く場があつてこそ、街の賑わいは戻ります。たくさん企業の力が、被災地での事業を支援してください。復興庁でも、地元企業と支援企業をつなげるお手伝いをしています。詳しくは、復興庁または私のホームページをご覧ください。

中尾哲雄代表へ。総理秘書官に続き、忙しい仕事をしています。富山県庁勤務時代のように、中尾さんが歌われる後ろで、私が下手なフルートを吹くといった機会は、しばらく無理のようです。



岩手県宮古市新里地区での物資の状況
(平成23年3月25日)

岡本 全勝 氏

昭和30年、奈良県明日香村生まれ。
昭和53年、東京大学法学部卒、自治省採用。
富山県総務部長(平成6年から平成10年まで)
内閣・省庁改革本部参事官、総務省交付税課長
内閣官房内閣審議官、内閣総理大臣秘書官
自治大学校長などを経て、現在、復興庁統括官。
この間、東京大学客員教授、慶應義塾大学法学部
講師などを兼務。